

「品川区子ども読書活動推進計画(令和7年度～11年度)素案」に寄せられたご意見(要旨)と
区の考え方

No.	ご意見(要旨)	区の考え方
1	第1章 第一の1 策定の背景において、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い、区立図書館全館で一時館内サービスが休止、制限となったことを明記すべき。	策定の背景は、図書館に限らず区全体についての記述となります。第2章 子ども読書活動の現状 第一の1区立図書館での取り組みの中で、コロナ禍の影響について触れております。
2	第1章 第二 1国の動向 (1)第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」4つの基本的方針の3 デジタル社会に対応した読書環境の整備 の中で「図書館及び学校図書館のDXを進める」とあるが、チャットGPTなど生成AI(人工知能)への懸念が広がっており、教育現場での活用は慎重に検討すべきであり、リスクについても言及すべき。	国の動向として、国の計画について記述した部分のため、このままの記述としますが、デジタル社会の負の側面については、計画策定にあたっての視点「デジタル社会のメリットを活かす」の中で、溢れる情報の中から真偽を見極める必要があるとしております。
3	第1章 第二 2東京都の動向 (1)「第四次東京都子供読書活動推進計画」の目指すものとして、4.読書の質の向上 とあるが、「読書＝活字文化や映像表現(マンガ、アニメ、映画、アート作品等を含む)と親しむこと」と広く捉えるべきではないか。	東京都の動向として、都の計画について記述した部分のため、このままの記述とします。都の計画の「読書の質の向上」についての詳説(p21-22)によると、読書の幅の拡大や、主体的に関わる態度の育成を指していて、マンガやアニメを排除することではないと読み取れます。
4	区立図書館とユニークな取り組みを行っている民間図書館のスタッフが子ども読書活動について自由闊達な意見交換ができる場:図書館サミットの実現を切望する。	実現可能性について研究してまいります。
5	第3章 第二 計画策定にあたっての視点 の「デジタル社会のメリットを活かす」に「子どもたちは、溢れる情報の中から、その真偽を見極め、必要なものを選び取る力を身につけることが必要」とあるが、そのためにどうすれば良いか言及すべき。	「子どもたちの、インターネット情報も含めた情報活用能力の向上を図ること」としていますが、計画の取り組みの中で、より具体的な方法について検討していきます。
6	第4章 第二 計画の体系 の目標に「ウェルビーイングにつなげる」という表現があるが、子ども達を含めて地域に広く周知すべきと考えるので再検討を望む。	「ウェルビーイング」の語釈を追加します。
7	第5章 計画推進のための施策 に「非核平和都市品川宣言」40周年を迎え全ての図書館で全世代に向けた平和資料(本、漫画、アニメ、DVD等)の充実を求める。	施策として言及はしませんが、各図書館にて平和資料の充実に努めてまいります。
8	希望者に図書館の本が回覧されてくる仕組みがあると良い。	実現可能性について研究してまいります。
9	この計画には具体的な内容がない。 何が新しい施策なのか書かれていない。	具体的な施策・事業については、各部署にて年度ごとに計画し進めてまいります。

「品川区子ども読書活動推進計画(令和7年度～11年度) 素案」に寄せられたご意見(要旨)と
区の考え方

No.	ご意見(要旨)	区の考え方
10	ブックスタート(品川区での事業名は「はじめてのえほん よんで よんで 事業」)は、絵本を渡す際に、その場で絵本の読み聞かせをして見せることが大事で、予算をつけて人を手配するべき。	絵本を手渡す際に読み聞かせをすることが難しいため、これを補う目的で「はじめてのえほん よんで よんで 講座」を実施しており、この講座の充実を図っていきます。
11	現在の図書館のおはなし会は、良い本との出会いの場になっていない。	おはなし会を担当していただくボランティアの方々への研修の充実に努めます。
12	学校図書館で読み聞かせをするボランティアに向けて、読み聞かせの意義や目的、方法を説明するパンフレットと読み聞かせに向く良書のリストを各学校に配布してほしい。	計画の取り組みの中で検討してまいります。
13	こども読書の日ではなく、品川区民読書の日を設けて、中高生、大学生さらには大人に向けて絵本の読み聞かせをするイベントを企画し、絵本の良さ、読み聞かせの良さを体感してもらい、こどもや周りの人に読み聞かせるきっかけとなるようにしてほしい。	計画の取り組みの中で検討してまいります。
14	この計画には学校図書館活用が抜けている。品川区では公共図書館が学校図書館の指導にあたるのに、学校図書館の教育について何も計画されていないことが問題。	品川区では、公共図書館は学校図書館のサポートを担っています。教育総合支援センター等と協力して、学校図書館における計画の推進に当たってまいります。
15	学校司書を業務委託ではなく直接雇用へ切り替え、力のある学校司書を配置することによって、先生との協働による読書教育を実現してほしい。	実現可能性について研究してまいります。
16	ボランティアがおはなし会で読んでいる本が、本当に優れている本ではない。ボランティアに「絵本、児童文学とは何か 優れた絵本とはどういうものでどれなのか」を学んでもらう講座をもっと行う必要がある。	計画の取り組みの中で検討してまいります。
17	推進計画をより現状に即し、持続可能なものにするために、保育士、学校司書、学童クラブや児童館の職員、お話し会の活動メンバー、直接雇用の公共図書館司書、学校図書館に詳しい有識者等、直接子どもと接している方を委員会メンバーに加えるべきだった。	今後の検討事項といたします。
18	計画の実行に向け、定期的に会議を設けて取り組み状況を共有し、問題点や成功事例を基に計画を見直すべき。その際、直接子どもと接している現場のメンバーを助言者として加え、実効性のある推進計画としてほしい。	計画を実行していく中で検討してまいります。

「品川区子ども読書活動推進計画(令和7年度～11年度) 素案」に寄せられたご意見(要旨)と
区の考え方

No.	ご意見(要旨)	区の考え方
19	学校図書館の役割をより明確にし、その充実に向けた具体的な施策を推進計画に盛り込むべき。	具体的な施策・事業については、各部署にて年度ごとに計画し進めてまいります。
20	事業の標準化や研修体制の整備により、(図書館)全館で一定水準のサービスが提供されるよう改善を望む。	全館共通のマニュアルに沿ってサービスを提供しておりますが、研修体制の整備については今後研究に努め、サービスの向上に取り組んでまいります。
21	ブックスタート(品川区での事業名は「はじめてのえほん よんで よんで 事業」)において、以下三点の実施を提案する。 ①4ヶ月検診時におはなし会を設ける ②本を手渡す際に、図書館で専門家が赤ちゃんに読み聞かせを行い、本との関わり方を保護者に伝える ③図書館で開催されるおはなし会(わらべうたなど)の案内を保護者に提供する	①については、関連部署と相談の上、実現可能性について研究してまいります。 ②については、絵本を手渡す際に読み聞かせをすることが難しいため、これを補う目的で専門家による「はじめてのえほん よんで よんで 講座」を実施しております。この講座の充実を図っていきます。 ③についてはすでに実施しており、継続してまいります。
22	児童サービスボランティアと学校図書館ボランティア向け講座を一本化し、より実践的で役立つ内容にすることで、効率的な学びの場を提供してほしい。	計画の取り組みの中で検討してまいります。
23	司書の配置を求める。	学校図書館運営支援スタッフは、主に司書、司書補、司書教諭のいずれかの資格を有する者に務めてもらっています。 公共図書館の窓口業務の委託事業者、指定管理者についても、司書比率の向上を進めております。
24	「はじめてのえほん よんで よんで 事業」において、カウンターで事務的に絵本を渡すだけでは、絵本の楽しみ方や図書館利用などは伝わらない。スタッフの対応はどのようにしているのか?	絵本を手渡す際に読み聞かせをすることが難しいため、これを補う目的で専門家による「はじめてのえほん よんで よんで 講座」を実施しております。この講座の充実を図っていきます。
25	「おはなし会」で読む本の質に問題がある。その場限りの受ける本やただ面白い本では心に残らず読書に繋がらない。絵本の選書が大人の都合でよい子の絵本・ウケる絵本・ためになる絵本になっていないか?「おはなし会」を運営するスタッフやボランティアの研修についてはいかがか?	おはなし会を運営するスタッフと、担当していただくボランティアの方々への研修の充実に努めます。
26	来館者数や貸し出し数のためにイベントを行うのは数字に結果は表れるが、本当に読書に繋がっているか?	イベントを行う際には、読書につながる内容とし、関連図書の紹介等、貸出に結び付ける形で行っており、これからも継続してまいります。
27	学校図書館には、専門家である司書が常駐してほしい。	現在、週15時間もしくは週18時間となっている学校図書館運営支援スタッフ(司書)の配置時間を拡張することについて検討してまいります。

「品川区子ども読書活動推進計画(令和7年度～11年度) 素案」に寄せられたご意見(要旨)と
区の方考え方

No.	ご意見(要旨)	区の方考え方
28	この素案を各学校に配布しているか？ 区民へ周知しているか？	学校を含め、区民への周知は、広報しながら11月21日号、および品川区ホームページ、図書館ホームページにて実施しております。
29	冊子を作り、だれもが読めるようにしてほしい。	決定した計画は、図書館ホームページでご覧いただけるようにするほか、印刷したものを各図書館にて所蔵し、閲覧・貸出に供します。
30	品川区に数多くある子育て支援を担っている民間団体NPOの力を借りて、子どもと本をつなぐことも視野に入れてほしい。	協働について検討してまいります。
31	計画は流動的であり成功、失敗例を共有して進めていくべきで、そのため、施策について、定期的に現状をチェックし修正するべき。	計画を実行していく中で検討してまいります。
32	学校図書館の司書の配置問題を早急に改善してほしい。	現在、週15時間もしくは週18時間となっている学校図書館運営支援スタッフ(司書)の配置時間を拡張することについて検討してまいります。
33	策定委員会のメンバーに次回からは学校図書館司書を置いて欲しい。また、子どもの委員も置いて欲しい。	今後の検討事項といたします。
34	計画を周知する機会や、振り返りの機会などを設けて欲しい。	計画を実行していく中で検討してまいります。
35	学校図書館司書は、子どもの学びと共に、教員のサポートにも大きな力となること、積極的に活用することが学校全体のフォローに繋がることを品川区教育委員会・学校に知って欲しい。	「図書担当教諭研修会」等を通じ、引き続き周知してまいります。
36	学校図書館の司書が毎日いられるようにし、子どもも教員も、学校に関わる多くの方が学びや知識を得られる環境を整えてほしい。	現在、週15時間もしくは週18時間となっている学校図書館運営支援スタッフ(司書)の配置時間を拡張することについて検討してまいります。
37	「子どもの読書活動推進」は図書館だけではできない。学校教育、指導課がかかわる必要がある。保育・幼稚園・子育て関連の行政が計画に責任を負わなくては推進できない。	この計画は、図書館、家庭、地域、保育園・幼稚園・学校・児童センター等、子ども関連施設、区内で活動する子ども関連団体と連携して推進していくものとしています。行政においては、教育・子育てに関わる部署が連携して計画を推進してまいります。
38	「特別な配慮を必要とする子ども」への取り組みについて、すべての段階で表現されるべき。特に教諭・司書教諭・学校図書館スタッフへ研修を行うことを記載してほしい。	すべての段階に共通する項目として、「5・より良い読書環境づくりのための施策」を挙げており、この中で子どもの多様性に対応する取り組みについて言及しています。広くPRする対象として、教諭・司書教諭・学校図書館スタッフを例示することとします。
39	学校図書館を計画的に授業で活用することが指導要領でも求められている。授業でどのように図書館が活用されているかが見える調査が必要。	授業における図書館の活用のされ方について、把握し周知する方法について検討してまいります。

「品川区子ども読書活動推進計画(令和7年度～11年度) 素案」に寄せられたご意見(要旨)と
区の考え方

No.	ご意見(要旨)	区の考え方
40	情報活用能力は、学校図書館で、図鑑や百科事典・年鑑・新聞・雑誌の活用、インターネットサイトと本の違いなどを学ぶことが基礎となる。このためにも、また「特別な配慮を必要とする子ども」のサポートのためにも学校司書の時間数を増やしてほしい。	現在、週15時間もしくは週18時間となっている学校図書館運営支援スタッフ(司書)の配置時間を拡張することについて検討してまいります。
41	施策について(継続)(新規)(重点)など表記の工夫ができないか。	表記はこのままといたしますが、すべての施策に重点を置いて取り組んでまいります。
42	計画普及のための研修会・助言いただいた方による「子ども読書推進講演会」の実施、進捗具合を検討する「子ども読書推進懇談会」等を設けるか、2年終了後に経過点検報告をしてほしい。	計画を実行していく中で検討して参ります。
43	4カ月健診の待ち時間にはじめての絵本よんでよんで講座を開くなどして全員参加できるようにする。あるいは簡素化してもいいので読み方のコツや重要性を簡単に説明して絵本パックを渡すようにする。	「はじめてのえほん よんで よんで 講座」の充実方法のひとつとして検討して参ります。
44	中高生は勉強や部活で忙しく図書館に足を運ぶのは難しいため、学校図書館がいつでも開館していて学校司書が常駐していることが必要。	現在、週15時間もしくは週18時間となっている学校図書館運営支援スタッフ(司書)の配置時間を拡張することについて検討してまいります。
45	学校の先生方に、学校図書館の利活用についての研修、デジタルツールとアナログツールの使い分けの授業を行うための研修を、オンラインで参加できる形で行うべき。	計画の取り組みの中で検討してまいります。
46	子供の読書活動を間近で見ている学校司書や児童館職員、幼稚園教諭、保育士などをアンケートの対象にしてみてもどうか。	今後の検討事項といたします。
47	学校を訪問しての読み聞かせやブックトークは、各学校に必ず年に何回は行くなど決めて提案していくべき。	計画の取り組みの中で検討してまいります。
48	具体的にどの施設がどのような取り組みをするのか、そしてどのように報告評価するのか、今後調整していったほしい。	計画の取り組みの中で検討してまいります。
49	学校図書館運営支援スタッフを区の直接雇用にし、かつ勤務時間を増やし、学校図書館を毎日開館してほしい。	現在、週15時間もしくは週18時間となっている学校図書館運営支援スタッフ(司書)の配置時間を拡張することについて検討してまいります。

「品川区子ども読書活動推進計画(令和7年度～11年度) 素案」に寄せられたご意見(要旨)と
区の考え方

No.	ご意見(要旨)	区の考え方
50	委員会に、図書館員、学校司書、運営支援スタッフ、子どもの読書に関して活動している人、区民、公募の人等、現場の状況をわかる委員をいれるべきだった。	今後の検討事項といたします。
51	読書人口を増やし意識喚起するには、「いい本に出合った経験」を共有する仕組みを導入していくことが効果的なため、毎月の「区報」に区民から寄せられるお薦め本の帯を載せるとか、「区議会だより」に、区議からのお薦め本を紹介するなどし、区内の所蔵図書館の情報も併せて掲載してはどうか。	計画の取り組みの中で検討してまいります。
52	大人たちが図書館を利用している姿が、子どもたちへも模範的な行動として映るため、「書評プレゼンおとなバージョン」のイベントを行ってはどうか。	計画の取り組みの中で検討してまいります。
53	おとなが本を読んでいる姿を子どもたちが見ることは、読書習慣を育むことに、大きく貢献するため、親子で共通の本に触れる機会を提供してはどうか。定期に開催される朗読ブースみたいなものがあったもいい。	各館で行っているおはなし会は、親子で参加することができですが、この他にも親子で参加できる機会を提供できないか検討してまいります。